子どもの貧困について

佐藤龍彦

子どもの貧困は90年代から増加傾向にあり、この20年ほどで貧困世帯が2倍にもなっている。日本はOECD加盟国の中でも相対的貧困率が高い国で、子どもの6人に1人が貧困ラインを下回る現状にある。

〔質問〕子どもの貧困について、どのような認識を持っているのか伺う。

〔答弁〕【市長】我が国の子どもの貧困状況は、先進国の中でも厳しい状況にあり、本市でも、特にひとり親世帯の経済状況は厳しいと認識している。

〔質問〕本市の子育て世代の子どもの人数について伺う。

〔答弁〕【子ども家庭課長】子育て世代臨時特例給付金の受給者からの算出となるが、平成27年10月6日現在で2千288世帯、中学生以下の児童数は3千875人である。子ども1人の世帯は1千63世帯、2人の世帯は924世帯、3人の世帯は251世帯、4人以上の世帯は50世帯である。

〔質問〕本市の相対的貧困率の貧困ラインを下回る世帯数と子どもの人数を伺う。

〔答弁〕【子ども家庭課長】厚生労働省の調査に基づく貧困ラインは所得金額が122万円で、貧困ラインを下回る世帯数は、児童手当受給者世帯2千253世帯中、361世帯、子どもの数は408人である。

〔質問〕ひとり親世帯の貧困ラインを下回る世帯数と子どもの人数を伺う。

〔答弁〕【子ども家庭課長】児童手当受給者のうち、税法上の寡婦(夫)控除を受けている世帯は215世帯、子どもの数は389人で、そのうち貧困ラインを下回る世帯数は113世帯、子どもの数は204人である。

〔質問〕今後の支援策について伺う。

〔答弁〕【市長】これまで第3子以降の保育料算定時の第1子の年齢要件引き上げ、放課後児童クラブ利用料金算定時のひとり親家庭の減免、子ども医療費助成拡充などに取り組んできた。

さらに平成28年度からは、子育て応援住宅、子ども医療費助成の所得制限撤廃、保育料算定時の寡婦(夫)控除のみなし適用などを実施していきたいと考えている。

福岡線バス車内アナウンスについて

佐藤秀行

〔質問〕市は、戦国BASARAで片倉小十郎役を担当した声優森川智之さんの声により、平成27年8月3日から小原線全線を対象路線とし、停留所案内のほか、沿線観光案内を車内放送している。

そこで、白石市の文化・歴史・自然・伝統工芸などの魅力を発信し、さらなる観光客の拡大につなげるためにも、ほかの路線、特に鎌先温泉さらには弥治郎こけし村等を有する福岡線の車内アナウンスについて、同様の取り組みができないか伺う。

〔答弁〕【市長】福岡線のバスは、運転手がマイクで案内している。

市でも、利用者の利便性、運転手の負担軽減を考慮して、すべてのバスに音声装置を設置したいと考えており、補助事業等を活用できないか検討している。

また、音声装置の導入に際して、小原線のように温泉地や観光施設を通行する路線には、観光案内を含めたオリジナル音声の案内にしたいと考えている。

福岡線のバス車内アナウンスについては、平成28年度に中型バスを購入する予定である。

このバスもキャラクターをラッピングすることを踏まえた上で、オリジナルの音声による車内アナウンスができるように、前向きに検討していきたい。

◎白石川緑地公園陸上競技場について

〔質問〕毎年、本市の陸上競技場で県や東北そして全国大会へとつながる中学生の陸上競技会が開催されている。

生徒の学習環境・練習環境・競技力の向上、施設設備の充実という観点からも、400mトラック8レーンを、現在の土質から全天候型舗装にすることを検討していくことができないか伺う。

〔答弁〕【市長】全天候型に改修する場合、最低でも数億円の改修費用が必要となる。また、付帯施設の整備も加わると費用がかさむと見込まれる。

現在、陸上競技場がある場所は、白石川緑地河川敷であるため、高さのある構造物が作れないこと、管理するのも難しいため、現時点では考えていない。

【その他の質問】

◎施政方針について

◎教科書採択について